

給食のウズラ卵使用 **秋田市などで取りやめ**

福岡・児童死亡事故受け

福岡県みやま市の小学1年の男子児童（7）が26日に給食を喉に詰まらせて死亡した事故を受け、本県の各教育委員会は原因になったとみられるウズラの卵を給食の食材から外すなど影響が広がっている。

秋田市教委は28日、市立の小中学校全60校の献立で3月に2回予定されていたウズラの卵の使用取りやめを決めた。担当者は「死亡事故という事の大きさから、不安に感じている保護者が多いと思う。国の調査結果を踏まえ、今後の対応について検討したい」と話した。

横手市教委は、きょう1日におでんへウズラの卵を入れる予定だったが、事故を受けて見送った。このほか潟上市、大仙市などの教委が当面、使用を控えるとしている。

給食のウズラの卵を巡っては、2015年に大阪市の小学校で1年の女子児童が鶏肉と野菜のうま煮に入っていたウズラの卵を喉に詰まらせて死亡した例もある。

こうした事故を防ぐため、文部科学省は給食時の注意点をまとめた指導手引き書（19年改訂）を教育関係者向けに公表。①思いがけずのみ込む恐れのある丸い形状の物は十分な注意が必要 ②食べやすい大きさにして、よくかんで食べるよう指導する—ことなどを求めている。

県教育庁は28日、各市町村教委と県立学校に対し、手引に従って給食時の指導を徹底するよう通知した。

（令和6年3月1日（金）秋田魁新聞より一部抜粋）